

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	長久手市	
施 設 名	長久手市文化の家	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	8,249	(千円)
公 演 事 業	5,501	(千円)
人材養成事業	2,381	(千円)
普及啓発事業	367	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	おんぱく2018～ようこそ！夏の音楽バザールへ	2018年6月9日～8月5日	出演：おんぱくオーケストラ、おんぱく合唱隊 他	目標値	800
		文化の家森のホール、長久手市内各所		実績値	4,093
2	コンドルズの遊育計画	2018年10月27日	出演：コンドルズ、長久手応援ソングキッズダンス隊 他	目標値	750
		文化の家森のホール		実績値	657
3	スティーヴン・イッサリス チェロ・リサイタル	2018年11月3日	出演：スティーヴン・イッサリス、コニー・シー	目標値	400
		文化の家森のホール		実績値	509
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,950
				実績値	5,259

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	長久手市劇団 座☆ NAGAKUTE	2019年3月16日、17日	出演：長久手市劇団座☆NAGAKUTE	目標値	600
		文化の家風のホール		実績値	489
2	長久手市文化の家創造ス タッフ	通年	主な内容：音楽デリバリー、冬の コンサート、その他企画	目標値	7
		文化の家、市内各所		実績値	7
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	607
				実績値	496

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	エデュケーション・プログラム 中学校であーと	2018年6月～7月	出演：愛知県立芸術大学学生及び卒業生 他	目標値	540
		市内全中学校（3校）		実績値	540
2	エデュケーション・プログラム 小学校であーと	2019年2月～3月	出演：愛知県立芸術大学学生及び卒業生 他	目標値	700
		市内全小学校（6校）		実績値	700
3	ガレリアコンサート	通年（全10回）	出演：長久手市や名古屋市近辺を拠点に活動するプロのアーティスト	目標値	1,000
		文化の家ガレリア		実績値	1,878
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,240
				実績値	3,118

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

本市の文化施策は、長久手市文化芸術マスタープランに基づき市の文化芸術施策の基本理念「ともに創るきらめく長久手」を実現するために、「誰もが参加でき、充実を得られる文化芸術環境」「芸術のまちアイデンティティの確立」「文化芸術を活かしたまちづくり」の3つの基本方針のもと実施されています。また、本市は市内に愛知県立芸術大学があり、在学生をはじめ卒業生などが職業を「芸術家」として住民登録している市民が人口の約1%おり、これは全国的にも非常に高い水準で「アートのまち長久手」を特徴付けています。また、平均年齢39歳と日本一若いまちであり、子育て世帯も年々増加しております。よって、文化の家が核となり、質の高い舞台芸術公演を行うと同時に子育て世代の多い現状やニーズを反映して子どもたちが誰でも参加できる場を提供することで、芸術が市民に身近なものとなり、子どもたちの感性を育み、本市が「芸術のまち」であることを実感でき誇りに思えるようなまちづくりを推進する目標を掲げ事業を展開しました。

平成30年度は、おんぱく、コンドルズの遊育計画はじめ、約12本の子ども向け自主事業を実施し、乳幼児から高校生まで、多くの子どもたちが芸術文化に触れる機会を創出しました。また、イッサーリスのチェロリサタルではキッズプログラムを企画し、世界最高峰の演奏を小さな子どもたちが聴くとともに、アーティストとの交流の機会も作りました。

人材育成においては、優れた技術や芸術性、高い知識を有する芸術家や専門家の卵ともいべき人材を「創造スタッフ」として委託契約を結び、キャリアの形成を図るとともに活動情報を発信し、若い人材を育てる機会を創出することを目標とし、様々な演奏会やパフォーマンス、アウトリーチを地域で行いました。

普及啓発事業においては、次代を担う子どもをはじめ、生の舞台公演や芸術作品をあまり鑑賞しない市民、文化の家まで足を運ぶことが少ない高齢者など、文化芸術に触れることが少ない市民を対象に、フリースペースでのコンサートや高齢者施設で演奏をしたり、市内小中学校全校に出向いて生演奏を間近で聴いてもらい、アーティストと触れあう機会を創出しました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

公演事業については、助成によってプログラムの拡充を図ることができました。その結果として、質の高いものを見たいという多様なニーズや客層に応える機会を広く提供することができました。特にイッサーリス公演においては、助成によってキッズコンサートの実施など、世界一流のアーティストに子どもたちが触れることができました。また、おんぱくでは、全国から選りすぐりのアーティストを集めおんぱくオーケストラとして結成し、オープニングから約2ヶ月間、市内各所に繰り出し質の高い演奏をたくさんの子どもたちに提供することができました。

人材育成事業については、市民劇団座☆NAGAKUTEの定期公演において市民劇団の活動を普及するためにチケット料金を抑えることができ、多くの来場者を呼び込むことができました。また、プロの技術スタッフらによるサポートを受け本格的な舞台の中で発表させることができました。この経験は、市民にとって演劇が身近な存在であることをアピールできるとともに、劇団員が今後活動していく上でかけがえのないものとなり、日々の稽古のモチベーションを高めることに繋がりました。

普及啓発事業のアウトリーチについては、無料公演のため従来は主催者側の収入がなく最小限の出演料で演奏を依頼していたところ、補助により本来必要な出演料の拡充が可能となり、演奏者や内容の充実を図ることができました。その結果として、質の高いプログラムを市立小学校全6校及び中学校全3校、およそ1200人に音楽室で体験してもらいました。子どもたちの多くが、「知らない楽器を知ることができた」とアンケートに答えており、子どもが音楽や楽器やアーティストに興味を持つきっかけをつくることができました。また、地元の若手アーティストにとって貴重な経験と研鑽の場となりキャリア形成に寄与することができました。

ギャラリーコンサートでは、音楽、ダンス、朗読、演劇などの公演を行うとともに、時間帯、曜日なども、他のイベントに合わせるなど、幅広い年齢層に、気軽にアートに触れる機会を提供しました。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

平成30年度に実施した公演事業においては、3つの助成対象事業全てが事業の充足度を測るものとして公演の満足度、リピート率ともに目標を上回る結果となりました。スタッフの満足度に関しては、おおむね「とてもよかった」や「よかった」というアンケート結果をいただきましたが目標値には僅かに及ばなかったため、今後、市民スタッフ、ボランティアスタッフはじめアーティストとの交流を通じて、すべてのスタッフのホスピタリティを強化していきます。

おんぱくでは、2ヶ月の開催期間中にのべ4,000人以上が参加し、まちなかコンサートでは、母親が乳幼児を連れて何度も足を運ぶ姿が見られました。また、最終日のメインイベントは、事前のアクティビティが有効に働き完売となり、多くの親子がクラシックの魅力に浸る1日になりました。コンドルズの遊育計画において、公演前日に市が洞小学校でアウトリーチを行い、コミュニケーションとしてのダンスを身近な形で体験しました。本公演では開場中から段ボールを使った遊具を作成、配置して、遊びを通じた体づくりを体験し、長久手応援ソングや地元のキッズダンス隊も加わって長久手ならではの公演となり、公演アンケートによる満足度も高い結果となりました。

イッサーリスチェロリサイタルにおいては、事前に音楽に関する絵や作文を募集、展示してアーティスト本人からコメントをもらうなど関連企画を行いました。本公演前日のキッズコンサートは大変好評で、事前に完売となりました。質問コーナーではイッサーリス氏と子どもたちの交流も生まれ、来場者の満足度も高い様子でした。本公演も、来場者の満足度は非常に高かったです。

人材育成事業においては、目標を掲げた地域貢献度、公演満足度、自立度、すべてにおいて目標を達成しました。市の劇団には新たに2名の団員が入団し、定期公演では合計489名の来場者があり、地域の文化活動の活性化を促すことができました。また、これまで会館スタッフが作成していた公演チラシについて、チラシデザイン、印刷等作成業務をすべて劇団で作成し自立した活動への一歩に繋がりました。

創造スタッフ制度は、音楽、美術、情報の分野で事業の企画・運営・サポートに関わるとともに、児童館、学校、福祉施設などへのアウトリーチ、桜まつりや市民まつりなど市内行事への参加、近隣市町への出前ワークショップ、観光交流協会との連携イベントなど市内全域で幅広く活動し、それぞれの個性と専門性を発揮し地域住民に還元することができました。

普及啓発事業においてアウトリーチ事業に関しては、満足度だけでなく、将来の文化の家利用者やアートへの関心層育成のきっかけとするため興味の誘発度を測り、どちらも目標値を達成できました。その他の事業に関しても、おおむね目標を達成できました。

中学校であーとにおいては、市立中学校全3校の1年生およそ540人が音楽室でのプログラムを体験しました。事前に実施したアンケートの「授業以外で楽器を演奏する機会がありますか」の項目に対しては、多くの生徒が「ない」と答えており、また「生演奏を聴いたことがあるか」の項目に対しては、約4割の生徒が「ピアノはある」と答え、約3割の生徒「全くない」と答えていたため、普段音楽に触れる機会の少ない子どもたちが楽器について知る機会となりました。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業において、おんぱくでは6/10（日）～7/27（金）に「まちなかコンサート」と題し市内各所で合計24回開催しました。約2ヶ月間かけて、親子が集まる児童館や図書館、ショッピングセンターなどへアプローチした効果は大きく、母親が乳幼児を連れて何度も足を運ぶ姿が見られたり、おんぱくで初めてクラシックに触れた親が自身も子どもも楽しめるので来ているという声も聞くことができました。そうしたアクティビティの宣伝効果もあり、当日8/5はチケット800枚が完売し、結果としてのべ4,000人以上がおんぱくに参加し大変好評のうちに幕を下ろしました。準備期間を含めると、1年以上かけておんぱく実行員により創り上げたイベントではありますが、会議を重ねる中でおんぱくに関わる市民、スタッフ、アーティストと一緒にクラシックの魅力を子どもたちに伝えることについて考える機会になりました。長久手市の夏の風物詩としてブランディングの側面も持つこのイベントへの効果は大きく、当初の目的や計画に適した結果となりました。

イッサーリスのチェロリサイタルでは、本公演に加えて前日にキッズコンサートを実施しました。事前に音楽に関する絵や作文を募集し展示して、アーティスト本人からコメントをもらうなど関連企画を実施したことや、本公演での質問コーナーなどではイッサーリス氏と子どもたちの交流も生まれ、来場者の満足度も高い様子でした。イギリスから来日し、2日間という短い期間の滞在であったが、お客さんとの交流も生まれ充実したプログラムとなりました。マスタープランにおいて「長久手クオリティ」に位置づけられる質の高い公演であり、事業費もチケット料金も高めに設定されていましたが、キッズプログラムと本公演合わせて約500名の来場者が名演に触れられたことは、当初の目的に見合う結果となりました。また、事前に大きく新聞等に取り上げられたことで、広く市民に周知されました。

コンドルズの遊育計画においても、コンドルズの皆さんには前日の市が洞小学校アウトリーチから参加していただき、1校限定で開催したがコミュニケーションとしてのダンスを体験してもらいました。また、事前に段ボールを使った遊具作りのワークショップを親子向けに開催することで、本公演への有効なアプローチになりました。本公演当日は開場中の段ボール遊具で遊ぶ時間からステージ公演まで、遊びを通して体を思いっきり動かす1日になり、「遊び」の楽しさ、大切さを感じる時間になりました。子どもたちを対象としているため料金設定が安価でしたが、長久手応援ソング「クーテシガーナ」の振り付けをしたコンドルズの近藤良平さんと、クーテシガーナキッズダンス隊との共演があったり、文化の家創造スタッフの協力を得て、公演で使用した段ボール遊具を全て長久手オリジナルで作成したりと、長久手のオリジナルティを付加することができ、長久手市のブランディングに繋がる充実したプログラムとなりました。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業について、おんぱくは実行委員会形式で行われており、アーティスト、市民、学者、職員が一体となって、約1年間かけて完全オリジナルの子どもむけクラシックイベントを作り上げています。オーケストラのメンバーは地元愛知県を中心に、東海地区、さらには関東・関西地区からも参加しており、若い世代を中心に「おんぱく」の趣旨に賛同したメンバーが集まっています。子どもの多い長久手市において、乳幼児から文化芸術に親しむきっかけとなる機会を充実させ、クラシック音楽を通して子どもたちの感性を育み、アーティストや子育て世代間、ボランティアに関わる学生たちの交流を促すことに繋がっています。また、公演アンケートから「おんぱくがあるから長久手市に引っ越してきた」という声もあり、継続することで住みよいまちづくりにつながるイベントになってきています。

また、コンドルズ公演では、当日のダンボール遊具を関連WSで作成したものと、名古屋女子大学から提供してもらったものを活用し、全て長久手オリジナルのもので構成しました。遊具提供してくれた名古屋女子大学の学生さん25人が当日もボランティアとして子どもを見守り、今後、子どもの教育現場で働く学生さんにとってもいい経験となりました。開場中の段ボール遊具で遊ぶ時間から本公演まで、親子で遊びを通して体を思いっきり動かす1日になり、「遊び」の楽しさ、大切さを感じる時間になりました。本公演プログラムの最後には長久手応援ソング「クーティガーナ」のキッズダンス隊と振付親の近藤良平さんとのコラボレーションも実現しました。

人材育成事業における創造スタッフ制度は、愛知県立芸術大学の卒業生を中心に積極的に地元アーティストを起用しています。契約期間は1年単位ですが、経験値や評価を上げるために何回かは契約を更新できるフレキシブルな仕組みになっています。また、創造スタッフを卒業した後も必要に応じて関わりを持つことで、文化の家にとっても貴重な財産となっております。このように常に地域の新しい才能を発掘、育成することで、文化的なまちづくりに繋がっています。

特に平成30年度は、美術、音楽、舞踊、演劇と幅広いジャンルのアーティストと契約を結び、各ジャンルにおける企画だけでなく、他ジャンルとコラボした企画も多く実施しました。例えば、生涯学習課とコラボしたウォーキングイベントの後にダンスと音楽のパフォーマンスをしたり、観光交流協会とコラボし地元ショッピングセンターで音楽や美術のイベントを開催したりと、地域に出て行くことで、市民にとっての芸術文化の垣根を低くすることができました。このような経験やネットワークの構築によって、アーティスト活動の今後のキャリアパスに繋がります。



## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

公演事業におけるおんぱくは、長久手市文化芸術マスタープランの基本方針1「誰もが参加でき、充実を得られる文化芸術環境」に位置づけられる事業で、「クラシック音楽を好きになってもらう」ことを目的に、0歳から入場可能、メインターゲットを3～5歳の未就学児としたクラシック音楽イベントとして開催してきました。2004年から隔年で実施しており、毎回異なるテーマを設定しており、今回は「ようこそ、夏の音楽バザールへ」と題し、ボロディン作曲「だったん人の踊り」を中心に2ヶ月間にわたり市内約20カ所でコンサートを展開しました。アーティストの生演奏を間近で体験できるおんぱくは、次代を担う子どもの心に文化芸術を届け、子どもの健やかな成長に資する、子どもたちが輝くまちづくりに大きな役割を果たしています。

人材育成事業における市民劇団においても、マスタープランの基本方針に沿って「誰もが参加でき、充実を得られる文化芸術環境」を創出しています。敷居の高い「演劇」というジャンルにおいて、「市民劇団」という誰もが気軽に参加できる環境を作ることで、学生、主婦、高齢者、会社員など様々な社会属性の市民が参加でき、演劇を身近に感じられる場となっています。また、団員による主体的な活動への展開を支援することで、市民を行政施策の受益者としてではなく、主体的な文化活動者と考え、自立的な文化活動が展開できる環境整備を進めていきます。

また、普及啓発事業においては、小中学校、福祉施設、地域集会施設など文化の家館外で、普段生の芸術に触れることの少ない市民を対象に教育機関や地域の団体と連携して出張公演を実施しています。市内小中学生を対象にしたアウトリーチ事業は10年以上継続して行っており、市内小学校全生の6校と中学校全3校で生演奏をお届けする芸術と出会う機会を提供しました。

愛知県立芸術大学の学生や地元アーティストを起用することで、未来の文化芸術を担う若手がアートが持つ力や担うべき社会的な役割について考えるきっかけづくりにもなり、大学と連携することでお互にとっていい役割を果たしています。平成30年度は愛知県立芸術大学の在学学生及び卒業生が多く関わり、特に在学学生に関してはリハーサルやランスルーなど立ち会い、子どもたちに音楽を届ける目的や意義などについて考えてもらえるよう、丁寧に関わりました。

また、子どもたちが生演奏を間近で聴いたりアーティストと交流することで、次代を担う子どもの心に文化芸術を届け子どもの健やかな成長に資するとともに、長久手市が芸術家が多く住む「芸術のまち」であるという認識に繋がり、まちに誇りを持つシビックプライドに繋がっていくことを期待します。

その他普及啓発事業として、毎月ガレリアでの無料コンサートを開催し、一定の芸術性を確保しながら、ガレリアでの公演を定期的に開催し、気軽に日常の中で芸術に触れる機会を提供しました。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

長久手市文化芸術マスタープランの基本方針に基づき、「普及・啓発事業」「鑑賞・体験事業」「アートのみち創造事業」「市民参画事業」「情報事業」「活動空間提供事業」の6つの柱を軸に事業を展開しています。主催事業については、アンケートを分析し、情報入手経路や、住所から、マーケティング情報や、開演時間、公演の選定などに反映させています。また、隔年で実施している「おんぱく」については、名古屋芸術大学に委託し効果測定を実施しています。事業実施については、常に文化芸術マスタープランに沿って計画しており、全ての事業の指針となっています。

また、情報発信面においては、文化の家のファン獲得のために平成24年度から開始したSNSで、事業等の様子を逐一報告するようにし、随時情報を受け取れるような取り組みをしています。会館の運営するFacebookでは、「いいね！」獲得数が1,300を超えました（平成30年9月現在）。また、平成27年度から情報誌「ハレとケ」を発行し、公演チラシだけでは伝えきれない、公演の意義や出演者裏話や、会館の活用方法の提案、普及啓発事業のレポート等、会館の取り組みをより広く伝える仕組みを作っています。それとは別で、ダイレクトメールによる情報発信を行っており、来場者の情報入手経路のうち「文化の家からの公演案内（ダイレクトメール）」が占める割合が高かったことから、滞りがちであったダイレクトメール発送事務の見直しを行い、継続的に文化の家事業の情報発信を行うようにしています。平成26年度より年3回文化の家事業の集合チラシを作成し、顧客に発送するようにし、今まで興味のなかったジャンルの事業にも顧客の目が向くように工夫しています。また、平成29年度から南山大学経営学部教授に広報アドバイザーを依頼し、月に1回広報マーケティングについて学ぶ職員研修を実施しています。

人事戦略においては、臨時職員として愛知県立芸術大学や名古屋芸術大学の学生や卒業生などを積極的に採用することで、直営館では避けられない人事異動のリスクを軽減させるとともに、事業の企画運営にも役立っています。またチラシデザインを担うスタッフについては、毎年愛知県立芸術大学の在学生起用し、制作の現場でノウハウを学ぶ機会を提供するとともに、文化の家としても会館スタッフとして安価にデザイナーを雇うことができるため、お互いにとって有効な関係性が築けています。

また、他館との交流も積極的に行われており、愛知県公立文化施設協議会主催新任職員向け研修「愛公文セミナー」への参加や一般財団法人地域創造主催のステージ・ラボに毎年1名派遣のほか、子ども向けの海外演劇公演を複数館で連携して招聘するジョイントフェスティバルにも参加しています。また管理職にあたっては、各種研修の講師や大学授業の講師なども積極的に行っています。

また、文化の家では市民と協働で様々な事業を展開しており、今年11回目を迎えた「ながくてアートフェスティバル」では、市内の美術作家有志が実行委員会を構成し、フェスティバルを継続してきたことで、市民が自由に自律的に企画運営するシステムが確立しています。近年、市民でつくる子どものための鑑賞組織・長久手おやこ劇場から、企画情報や提案を受けた公演を行い、子育て世代のニーズを反映させるために「おんぱく」に企画段階から関わってもらうなど団体との協力も進めています。会員組織フレンズは結成以来、自主事業のサポート、自主企画の実施、機関紙の発行、研修などの活動を充実させ、自立した運営体制を確立してきました。また、「文化力」をまち全体で活かす「市全体の文化マスタープラン」においても市民と協働で策定し、策定にあたり文カフェ（市民ミーティング）で市民の多様な意見を集め、市民主体で話し合う市民検討会議を開催し、市民と行政のパートナーシップによる検討を丁寧に行ってきました。

平成30年度からは、市民館長を登用しました。やがて訪れる人口減少を見据えて市民の一層の主体的参加を図るためには、単に市民に参加を呼び掛けるだけではない工夫が必要で、また、市民が単独で事業を実施していくのは限界があるとの声が聞かれます。市民参画や行政との協働を支える専門的な人材・団体の起用・育成、若い世代、子育て世代の多様な市民が参加できる環境づくり、分野別・担当課別の縦割を越えた取組みを進めていく必要があり、市民館長を登用することで、これらの融合を図ります。また、市民館長を登用することで市民の立場からの意見やアイデアを取り入れ、より一層市民にとって「我が家」を感じるような親しみ深い施設を目指していきます。